

## 今井浩之(いまいひろゆき)先生のプロフィール

1960年北海道苫小牧市生まれ。

中学1年まではスピードスケートのオリンピック選手を目指していた。

昭和61年 防衛医科大学校を卒業

平成4年 自衛隊退職後に診療所、病院勤務をしながら漢方、針灸、気功術を勉強。

平成8年 苫小牧市に「いまい内科クリニック」を開院し、西洋医学と東洋医学を取り入れた環境改善と体質改善をテーマに診療中。

専門は内科・循環器科・小児科・アレルギー科。

### ◆先生が初めて漢方と出会われたのはいつ頃ですか

医師になって2年目の頃、ようやく仕事にも慣れて少し自信がついてきた頃です。たまたま大学病院の外来を歩いていた時、「漢方薬に興味がある先生方は勉強会を開きますので〇×内科の医局までお集まりください」と館内放送が聞こえました。

循環器内科を専攻し、心臓カテーテル検査を手伝ったり、上の先生方がアメリカの心臓病学会や循環器学会で発表する論文の手伝いをしたりしていた私は、最新の医学を学んでいるという“うぬぼれ”があったと思います。

「もの好きな人達もいるなあ。東洋医学や漢方に興味のある先生は変わった人が多いよな。だいたい漢方薬なんてうどん粉を丸めて飲むのと変わらないよ」と聞き流していました。



ところが、医師としていろいろな患者さんを診察するうちに西洋医学だけでは対処困難な患者さんの訴えに悩むことが多くなったのです。たまたま高齢者の腰痛、足の痛みに使うことの多い八味地黄丸という漢方薬を使ったところ驚くほど良くなった患者さんを経験して、漢方薬も効くことがあるんだな〜くらいに思っていました。

ある日、私自身がインフルエンザ様のひどい風邪をひいて抗生剤や解熱鎮痛剤の座薬を使っても全く良ならず苦しんでいた時、たまたま調剤薬局の薬剤師さんが漢方薬を薦めてくれました。

「麻黄湯をいっぶく飲み、10分待って汗が出て体が楽にならなければもういっぶく飲んでみてください。汗が出てきて楽になりますよ。」と言って漢方薬を2包渡してくれました。

2,3日分ほしいと言うと2回分以上は必要ありませんとやけに自信たっぷりです。早速その晩の寝る前に試してみたところ全く何の効果もありませんでした。がっかりして座薬をさしたところ汗が出て体が楽になり、ようやく眠ることができました。

ところが翌日、目が覚めて驚きました。

「あれ？風邪がすっかり治っている！こんな事って本当にあるの??」  
当時は、本格的に風邪をひくと坐薬で一時的に体が楽になったとしても、まる2日は完全にダウンして寝込み、前後1週間から10日は体がつらくつらくて仕方がなかったのです。

この自己体験が、科学の最先端だと思っていた西洋医学とは全く別な次元のすばらしい医療があることに気が付ききっかけとなりました。

今でも仕事柄、風邪の患者さんと接する機会が多いため、私自身よく風邪をひきますが、「かかったかな」と思ったら、すぐに漢方薬を1?2回飲む。たいがいはその場ですぐに良くなります。もちろんたまに抗生物質も飲むことがあります。1,2回(錠)だけです。

#### ◆先生の御専門で漢方はどのような効果を発揮していますか

しょっちゅう風邪で受診する子供が時々います。何度か薬を換えてようやく治ったかと思うと、また新しい風邪をひく。毎月毎月この調子で繰り返す。こんな子供のお母さんには「風邪を治すのではなく、風邪をひきやすい体質を治療しましょう。」と言って小建中湯を薦めています。

小建中湯は体質や胃腸が虚弱で冷え性の子供の胃腸炎、夜尿症、夜泣きや体質改善の治療に使うとされる薬ですが、漢方薬の中では甘みがあって一番飲みやすいので、私は子供の治療に漢方薬を使う時は導入として良く使います。



「残念ながら飲めませんでした。」と言われることもありますが、結構効きます。

「食が太くなって風邪をひきにくく、治りやすくなりました。」  
「湿疹も良くなり、この薬を飲んでいると疲れにくいと子供が喜んでいます。」  
「いつも風邪をひいて毎月1回は、喘息発作を起こしていたのに、周りで風邪が大流行しているのにうちの子だけ風邪をひかないんです。」と言われたこともあります。

喘息、アトピーもこの処方では何人かは治っています。寒がり、冷え性の子供に使うとされていますが、私のつたない経験では、暑がりの子供でも大人でも色白できゃしゃな患者さんには効果があるようで便利な薬です。

#### ◆普段の治療で漢方薬と西洋薬との割合はどれくらいですか

急性期の患者さんが多いため全体から見ると漢方のみは約1割、西洋薬との併用は2,3割。アトピー性皮膚炎、喘息、アレルギー性鼻炎、月経困難、更年期障害などの慢性病では8割以上で漢方薬を使用しています。

◆10年後の漢方医療はどうなっている(またはどうあってほしい)とお考えですか

西洋薬と漢方薬との使い分け、併用の方法が体系的に研究され、  
今よりもさらにいろいろな病気の治療に役立つようになると思います。

◆これから漢方医を志す方に一言お願いします

少しずつ使いこなせる処方を増やすと良いと思います。

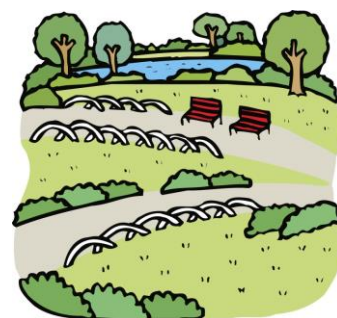
◆漢方に関心のある一般の方に一言お願いします

少しずつ使いこなせる処方を増やすと良いと思います。



◆座右の銘、好きな言葉などありましたら教えてください

「我なんじに命ぜしにあらずや？心を強くしかつ勇め、恐るなかれおののくなかれ」  
私はキリスト教徒ではないのですが、修行時代、精神的につらくなった時、  
「心を強くしかつ勇め」に節を付けて、心の中でよく唱えました。



注意:先生へのインタビューは、当会が2003年6月に行った内容です。